

令和3年度第3回今金町地域公共交通活性化協議会 議事要旨

日 時：令和3年12月9日（木） 午後2時00分～午後3時20分

場 所：今金町民センター 1階大ホール

出席委員：外崎会長 今金町長
藤川副会長 自治会町内会連合会
辻 監 事 今金町社会福祉協議会
久ヶ澤監事 今金町商工会
經 亀 委 員 国土交通省北海道運輸局函館運輸支局（高栖氏同席）
幅 口 委 員 北海道檜山振興局地域政策課（松本氏代理出席、田村氏同席）
武 田 委 員 せたな警察署
伊 藤 委 員 函館建設管理部今金出張所
田 中 委 員 今金町老人クラブ連合会
西 川 委 員 函館バス株式会社（柴田氏同席）
松 本 委 員 有限会社東ハイヤー（岸田氏、中川氏同席）
大 岩 委 員 函館地区交通運輸産業労働組合協議会
岸 委 員 今金町保健福祉課
由 浅 委 員 今金町公営施設課
早 坂 委 員 今金町教育委員会事務局
杉 山 委 員 今金町国保病院

欠席委員：天沼委員 自治会町内会連合会

日本データサービス株式会社：齊藤主任技師、日影技師

事務局：今金町まちづくり推進課 山田課長、鈴木課長補佐、木元主事、松永主事補

1. 外崎秀人会長（町長）あいさつ

年末の大変お忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。また、地域公共交通活性化のため、それぞれの立場からご尽力ご配慮いただき感謝申し上げます。

本日の協議会では、豊富な交通手段の確保と利便性を高めていくため、地域の交通関係業者である皆様からご意見をいただきたいと考えております。また、意見交流で挙げられた課題に対し、できるところから進めていくことで交通環境をより良いものにしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

2. 議 題

（0）經亀委員（函館運輸支局）より情報提供

地域公共交通の活性化及び再生に関する法改正について、現在、運転者不足により、各地でバス路線の徹底が促されている状況である。定量的な目標を設定し、毎年度の評価を行うPDCAサイクルを活用しており、データに基づくPDCAの強化を図っている。地域公共団体が、関係者と協議してサービス継続のための実施方針を策定し、地域の足を守るための事業である「地域旅客運送サービス継続事業」を創設。持続可能な交通維持を目指すため、交通関係者である皆様の意見を聞き入れていきたい。法改正について進展がありましたら、その都度情報提供させていただきます。

(1) 各種調査（公共交通乗降調査及び町民ニーズ把握調査）の結果及び分析について
（説明者：日本データサービス株式会社 齊藤主任技師）

◆公共交通乗降調査

瀬棚線（721 系統、743 系統）及び快速瀬棚号（710 系統）の利用者を対象に利用目的アンケートを実施。大半が瀬棚から今金までの区間を通学のために利用していると回答。また、道道 936 号区間は利用が少なく、運行距離が長くなるとその分運行費用がかかるため、運行区間の一部廃止や代替交通など、効率を良くするために新たな施策を取り込むことも想定される。

◆町民ニーズ把握調査

町民の生活圏や公共交通に対するニーズを把握するため、今金町に在住する町民を対象にアンケートを実施したところ、買い物先や通勤・通学先は町内が約 8 割であり、他町へ移動する際は自動車が大半を占めていることが判明。また、ルンるん号の認識の低さやバスの利用方法がわからない等の意見も見られた。新たな交通施策や交通モードを運行した場合、外出する機会が増えると回答した方が約 2 割とやや少数。

【質疑・応答・意見交流】

（松本委員） 函館市・八雲町に通院している方が約 3 割という調査結果から、快速瀬棚号へ接続できるダイヤの見直しや、待合所の閉鎖によってコロナ禍で待ち時間に変化が起きているため、そちらの調整も必要ではないか。高齢化が進み、人口減に伴い利用者の減少で厳しい状況にあるが、今後は町民の足となるサービス向上がさらに重要になると考えている。

（外崎会長） 待合所に関しては、新型コロナウイルス感染予防対策として町から自粛の要請をしている状況である。ダイヤの見直しは関係する事業者すべてで調整を図っていく必要があると考えるが、事務局の意見を伺いたい。

（山田課長） ルンるん号は導入して以来、運行についてほぼ変更することが無かったが、この状況下に則したダイヤ改正や函館バスとの接続調整を今後していきたいと考えている。

（經亀委員） この調査結果から、通院・買い物で広域な移動をしていることが見られた。既存の地域幹線系統の運行経路の見直しも含め、広域計画の方でも検討していくことが必要と感じられる。ルンるん号の運行エリア拡大は運転手の増加を伴うと思われるが、可能なのか。

（松本委員） 現在、4 コースを運転手 5 名で運行しており、実績では最大 3 コースの運行が被ったことがあるが、まだ余力はある。一方、一般のタクシー運行もあるので予約の調整が必要になってくる。既存のデマンドは高齢化の影響により、利用頻度が減少する可能性もあるが、以上のことを踏まえ、できる限り協力したいと考えている。

(2) 地域公共交通に係る課題整理及び今後のスケジュールについて

(説明者：日本データサービス株式会社 斉藤主任技師)

◆運転手の負担を考えながら、交通手段をバスだけとするのではなく、タクシー等其他の手段もあるので幅広く捉えて考える。また、待合空間の必要性があることから、待合空間の整備や改善に努める必要がある。こういった課題は、町民意見交流会を実施し、町民からの直接的な意見を取り入れて方向性を定めていきたい。

【質疑・応答・意見交流】

(外崎会長) 今後の協議会のスケジュールはどのようになっているのか。

(鈴木課長補佐) 運輸局側の査定結果を踏まえ、今後の開催を決めさせていただく。

(3) 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価の実施について

①地域内フィーダー系統 (説明者：今金町まちづくり推進課 木元主事)

◆予約バス「ルンるん号」の運行については国庫補助(地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金)を活用しており、毎年事業評価(自己評価)が義務付けられているため実施するもの。

◆令和2年10月から令和3年9月までの期間の事業評価を実施。

◆前回の事業評価結果の反映状況は継続した情報発信の実施と、市街地エリアでの乗車を継続して実施したことにより引き続きの利用促進を図った。事業実施の適切性については、計画通り適切に事業を実施したということで評価A、目標・効果達成状況についても、各路線で新型コロナウイルス感染症の影響による利用減もみられるものの、減目標利用人数3,600人に対し、実績3,640人と上回ったため、評価Aとした。

②地域公共交通調査等事業 (説明者：今金町まちづくり推進課 鈴木課長補佐)

◆事業実施の適切性について、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種調査の実施が後ろ倒しになっているものの、今年度に予定している各種事業内容は完了予定のため、評価Aとした。

◆町民の範囲・年代をしぼった中での意見交流を実施し、さらに詳細な町民ニーズを把握することで、より具体的な施策内容の検討を予定している。また、課題が浮き彫りになっている5つの基本目標について、ひとつひとつを細かくし、まとめていく方向である。

3. その他

○西川委員（函館バス株式会社）より

函館バス往復割引切符の期間限定販売について、新型コロナウイルス感染症の影響で自由に外出できない状況が続いており、地域の移動促進を図っていききたいという思いから、町民の方々にはぜひ利用していただきたい。地域公共交通に関しても、函館バスの地域間を守っていききたいという思いで努めていく。また、長年に渡って町民の足を守っていくにあたり、東ハイヤー株式会社をはじめ地域関係業者との連携は欠かせないため、皆様のご協力をお願いいたします。

4. 閉 会

（外崎会長） 各地域交通業者からご意見をいただいた通り、考え方や仕方を変えることなく努めていきたい。利用者と供給者の双方に対し、需要と影響について理解を促しながら進めていくことが大切である。国土交通のあるべき姿を目指し、町民の足を守るという観点から望ましい環境を少しずつ整えていけるようご協力願います。本日は貴重なお時間を頂きまして誠にありがとうございました。

以 上